

横浜都市農業推進プラン改定素案に対する市民意見募集の結果について

1 市民意見募集の概要

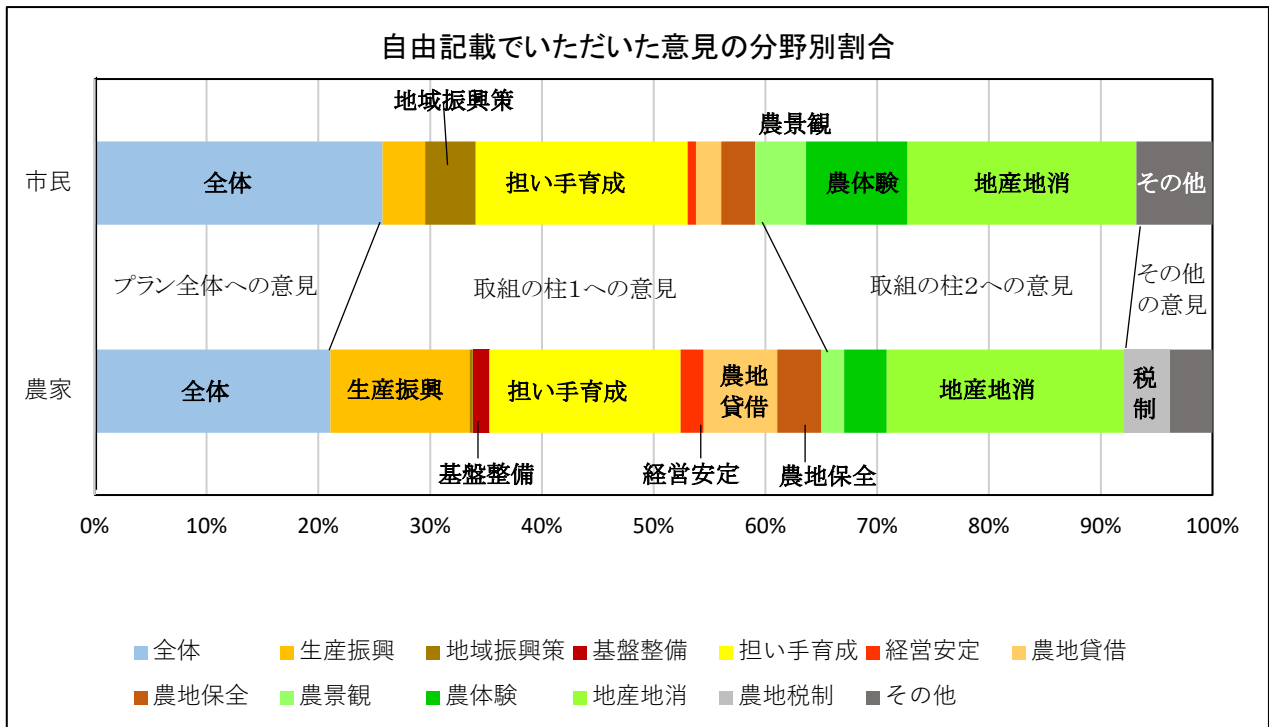
	市民向け意見募集	農家向け意見募集
実施期間	平成30年5月1日から5月31日まで	
実施方法	○自由記載 ○概要版パンフレットに添付のハガキ、FAX、電子メール、直接持参 ○概要版パンフレットの配架場所 各区役所の広報相談係、市民情報センター、農政事務所、環境活動支援センター、農政推進課、寺家ふるさと村四季の家、舞岡ふるさと村虹の家	○自由記載のほか、重点的に実施してほしい分野を10ジャンルから選択するアンケートも設定 ○農協を通じて、周知・配布及び回収の協力を依頼
意見提出数	55通(意見総数132件)	963通(意見総数1,247件)
	合計1,018通、(意見総数1,379件)	

2 自由記載でいただいた意見の分野別の数

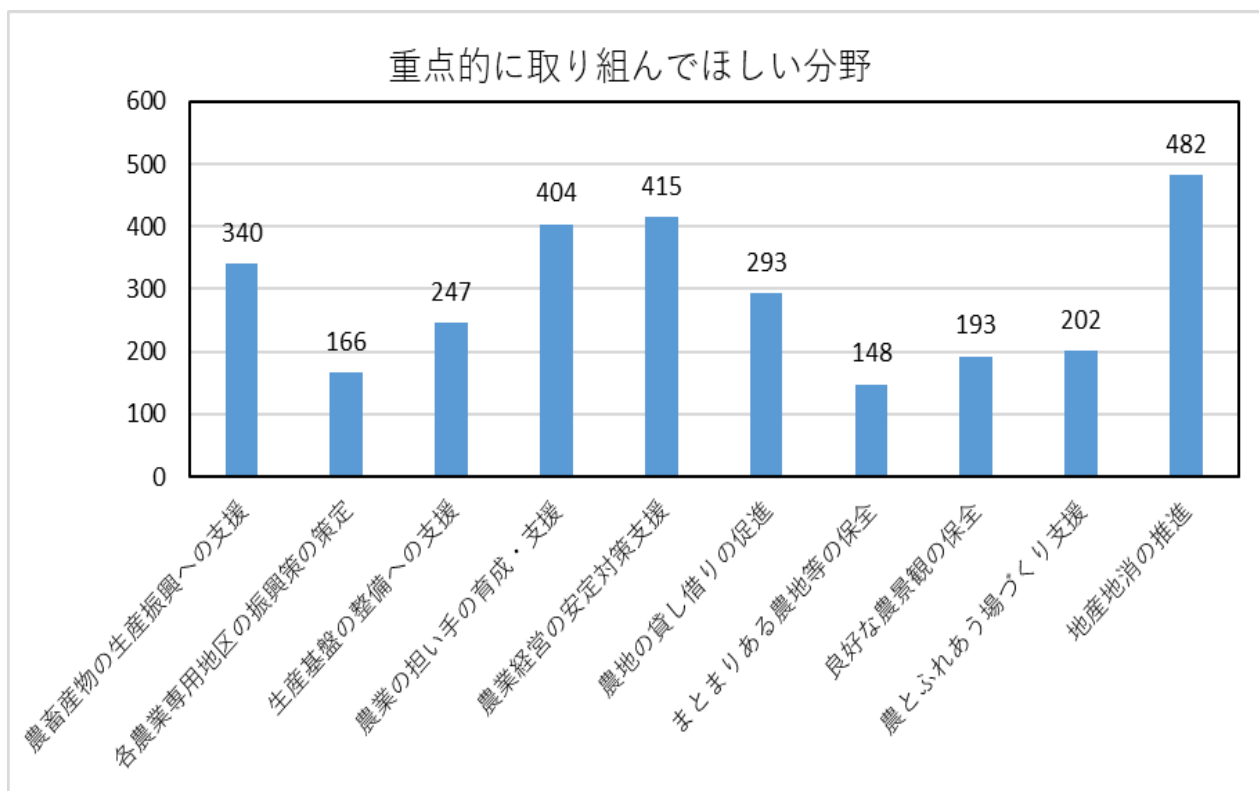
(件)

	プラン全体について	取組の柱1について							取組の柱2について			その他		合計	
		生産振興	地域振興策	基盤整備	担い手育成	経営安定	農地貸借	農地保全	農景観	農体験	地産地消	農地税制	その他		
市民	34	5	6	0	25	1	3	4	6	12	27	0	9	132	
農家	144	85	2	10	117	14	45	27	14	26	145	28	26	1,247	アンケートのみ564を含む
合計	178	90	8	10	142	15	48	31	20	38	172	28	35	1,379	

自由記載でいただいた意見の分野別割合



3 「重点的に実施してほしい分野」回答状況(農家のみ)



4 寄せられた主なご意見に対する本市の考え方

1 プラン全体に関すること		
	主なご意見の趣旨	本市の考え方
評価・期待	<ul style="list-style-type: none"> ・農業全般にわたりよくできたプランであると思います。 ・体系的によくできたプランだと思います。しっかりと農家を支援して、都市環境としての農地を次世代に残せるようにしてください。 ・都市の中に農業があるのはすばらしい環境です。これを維持してほしいと思います。 ・この取り組みは、短期間で終わることが無いように取り組むべきだと思います。平成31年以降も積極的に続けて横浜の農業の活性化に後押しをしてください。 ・市民と農の関わりを深めるという施策に共感します。 ・確実な実施を希望します。 ・横浜の農業の振興のために、単なる計画に終わらせず、予算も確保してほしいです。 	<p>本プランに対する評価や賛同のことばをいただいた多くの皆様からのご期待に沿えるよう、着実に施策を進めてまいります。</p>
不満	<ul style="list-style-type: none"> ・活力ある都市農業といっているだけで、目に見えるような姿がありません。 ・現状維持としての施策であれば、衰退していくと思います。 ・このプランは、農家目線のプランではなく、市民及び企業目線のプランになっているように思われます。 	<p>貴重なご意見をいただきましたので、今後の事業推進の際に留意してまいります。</p>
用語	<ul style="list-style-type: none"> ・「農のプラットフォーム」の用語の説明を加えてほしいです。 	<p>原案に、「農のプラットフォーム」の説明を加えました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「グリーンインフラ」の意味、概念が不明確です。 	<p>原案に、「グリーンインフラ」の説明を加えました。</p>
農業・農政PR	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市の中に農地があり、農業が営まれていることを知らない市民がまだ多いです。同じことの繰り返しでも、PRを強化して、市民理解を深める必要があると思います。 ・都市農業の必要性和魅力のアピールをしてください。 ・農地の多面的機能に対する市民の認知度が低いと、都市農業の良さが十分に伝わっていないと感じます。農地の大切さや必要性を積極的にPRすべきだと思います。 ・横浜市が農業を守る・支援するという姿勢をもっとPRすべきだと思います。 ・横浜市として、ここまで本気で横浜の農業に対して考え、行動していることを、市民に伝えていくことが必要です。 ・農業推進プランの成果等のHPへの掲載をお願いします。 	<p>いただいたご意見を踏まえ、ホームページなどで、横浜の農業やプラン・施策等についての情報発信の充実に努めてまいります。</p>
農協等連携	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と農協との連携を深めて実行に移していただきたいです。 	<p>引き続き、農協等関係機関と連携して、効果的に施策を進めてまいります。</p>

2 農業経営の安定化・効率化に向けた農業振興の施策に関すること

	主なご意見の趣旨	本市の考え方
生産振興	<ul style="list-style-type: none"> ・地消だけでなく、地産の支援をしないと、供給体制がとれなくなります。 ・梨栽培を継承して20年近くになり老木を順次改植していますが、ネットの設置・吊り棚の更新等に高額な資金がかかるため助成をお願いしたいです。子供たちへの継承の可能性が高まります。 	生産振興(高付加価値化・先進栽培技術)や生産基盤の整備などにより、農業経営の安定化や効率化を進めるとともに、農畜産物の販売機会の拡大や付加価値を高める取組を進めるなど、魅力的な農業経営となるよう取組を進めていきます。
高付加価値化	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の野菜やハーブ、果樹など新しいものも生産してほしいと思います。 ・もっとカラフルで多種類の野菜を身近に味わってみたいですね。 ・スーパーが安価で販売するので、よい品物で付加価値を作って売るしかないと思います。 	市内産農畜産物の付加価値を高める取組として、レストランなどのニーズが高いカラフルで珍しい野菜等の作付を奨励しています。レストラン向けに出荷するほか、直売所などでも販売していますので、ぜひご利用ください。
安全	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPは生産工程だけでなく、経営全体の改善が見込まれるので、表現を変えた方がいいです。 ・生産者の顔がわかることは、安全安心につながります。 	<p>いただいたご意見に基づき、原案の表現を修正しました。</p> <p>いただいたご意見も踏まえ、より多くの方に市内で生産される農畜産物の魅力を周知・PRする取組を進めていきます。</p>
周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の中では環境が悪化し、継続していけなくなっています。 ・住宅地に囲まれた畑が多く、農薬散布や機械の音には気を遣っています。 	いただいたご意見も踏まえ、より多くの方に都市と農地が共存する横浜の都市農業の魅力を伝える取組を進めていきます。また、周囲への農薬飛散を防止する施設の設置等を引き続き支援していきます。
鳥獣害	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣のカラス、ヒヨドリ、タイワンリス、アライグマ、ハクビシンや保護獣のタヌキも増え、作物被害が多くなっています。 ・駆除に伴う助成をしていただき大変助かっています。タイワンリスについても引き続き対応をお願いします。 ・カラス対策をお願いしたいです。 	野生鳥獣による被害防除等の対策は、被害を受けている農地や家屋の所有者が行う駆除に対する支援として、アライグマ、ハクビシン及びタイワンリスについて、捕獲罟の貸出と捕獲個体の回収・処分を行っています。また、鳥獣被害対策として電気柵や防鳥網の設置を支援する取組を行っており、今後も継続して実施していきます。
野焼き	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の残渣が焼却できるようになるといいと思います。 ・野焼きができないので、残渣の処理に困っているので、何とかしてほしいです。 	農家が自己の農作業に伴う稲わら等の燃焼行為については、周辺の住環境への影響が軽微な場合に限り例外的に法律や条例で認められていますので、実施時の天候や時間など周辺環境への配慮について引き続きお願いします。また、農作業で生じる剪定枝などを焼却できない場合に、たい肥化する設備の導入等を引き続き支援していきます。
上瀬谷	<ul style="list-style-type: none"> ・上瀬谷通信施設跡地の農業振興策の策定にあたっては、上瀬谷の魅力的な景観である一直線に伸びた海軍道路の両側に広がる農地の風景をいかしてほしいです。道の片側を開発したら魅力も半減してしまいます。道路沿いにファミレスやコンビニなどを作るとは魅力はさらに半減し、観光客も来ないと思います。環状道路は通過交通のためのものなので、交差点や信号、店への出入りの右折車両が増えたら、道路の機能も半減します。 ・農地を作りきれない農家には、菜の花、そば、ひまわり、コスモスなど手のかからない作物で景観形成をしたらよいと思います。また、ビール麦や小麦を作り、地ビールやパスタ、パンなど道の駅のレストランの食材に提供するのでもいいと思います。 ・観光農園として、手間のかかる梨やブドウは儲かりますが、手間のかけられない人達は、特産のトウモロコシ狩りをやれば大人気になると思います。 ・広い区画の農地があるので、企業参入を募集したら、首都圏南部の消費を抱え何社も進出するのではないかと思います。植物工場のような施設系は農地の広がりやの外側に立地させ景観をこわさないようにしてください。 	旧上瀬谷通信施設の今後の土地利用や農業振興策について、地元農業者とともに検討を進めていく中で、いただいたご意見についても参考とさせていただきます。
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・畑地にも灌漑ができるように基盤整備・改修の支援をお願いします。 	農業の生産性向上と都市と調和した良好な環境の創出を図るため、農業生産基盤の整備支援を進めています。ご意見にあります、畑地かんがい施設等の整備・改修につきましては、まとまりのある農地を中心に、施設の重要性や老朽化に応じ、順次支援を進めてまいります。

3 横浜の農業を支える多様な担い手に対する支援の施策に関すること		
	主なご意見の趣旨	本市の考え方
担い手	<ul style="list-style-type: none"> 農業は重労働でとても大変だと思います。担い手の育成や支援は必要だと思います。 農家の高齢化が進んでおり、後継者対策が重要です。 農業の担い手の育成・支援を積極的にやってもらいたいです。 	<p>いただいたご意見も踏まえ、地域の中心的な農業者となる認定農業者への支援や、意欲をもって安定的な農業経営ができるような農業後継者の育成など、横浜の農業を支える多様な担い手の育成・支援に取り組んでまいります。</p>
営農支援	<ul style="list-style-type: none"> 担い手が自信と誇りを持って、営農できるよう、全面的に支援してあげてほしいです。 安定した営農が継続できるよう、これから先も支援していただきたいと思っています。 生産者の方への支援が必要かなと考えます。 	<p>生産振興(高付加価値化・先進栽培技術)や生産基盤の整備などにより、農業経営の安定化や効率化を進めるとともに、農畜産物の販売機会の拡大や付加価値を高める取組を進めるなど、魅力的な農業経営となるよう取組を進めていきます。</p>
小規模家模	<ul style="list-style-type: none"> 小規模で生産している担い手に対しても、手厚い支援をしてください。 認定農業者だけでなく、小規模な農家への支援もしてほしいです。 	<p>営農規模を条件としない支援メニューもありますので、具体的な内容については所管の農政事務所までお問い合わせください。</p>
援農	<ul style="list-style-type: none"> 生産者を助けるための仕組みづくりとして、忙しいときにアルバイトやボランティアを紹介できるようにするといいいです。 	<p>労働力不足の農家と農家へのお手伝いを希望している市民の方々と結ぶ援農コーディネーター制度がありますのでご活用ください。本市では、援農コーディネーターを活用し、市民農業大学講座修了生などによる農家への援農活動を支援しています。</p>
新規参入	<ul style="list-style-type: none"> 農家以外の新規就農者への農地の貸し借りを、もっと簡単に手続きできるようにしてほしいです。 今後も活発な農業が続くように、新規就農のサポートを手厚くしてみてもいいかと思っています。 個人の農業を推進するのはもう限界に達してるので、法人の農業参入を早急に進めるべきです。 	<p>個人・法人を問わず、農業以外からの新規参入や教育・福祉団体の農地利用を引き続き進めてまいります。新規就農者へのサポート体制については、平成29年度から体制を強化してきておりますが、今後も取組を進めてまいります。</p>
安経定営	<ul style="list-style-type: none"> 農家が安定して、継続的収入が得られるような、支援・制度に力を入れてほしいです。 	<p>農業振興策や担い手支援策と合わせて、引き続き金融制度や価格安定制度に取り組んでまいります。また、新たに創設された収入保険制度などの加入状況も踏まえ、必要な支援策等を検討してまいります。</p>

4 農業生産の基盤となる農地の利用促進の施策に関すること		
	主なご意見の趣旨	本市の考え方
作不地耕	<ul style="list-style-type: none"> 不耕作地の解消を積極的にしてもらいたいです。 作付けされない農地を良好に保全する対策を早急に講じる必要があると思います。 	<p>不耕作地の解消に向け、農地の貸し借りのマッチングや遊休農地の復元支援などを進めてまいります。また、発生抑制策として、農作業の支援等についても検討してまいります。</p>
農地貸借	<ul style="list-style-type: none"> 農地の貸し手だけでなく、借り手への支援もお願いします。 農地の貸し借りが生産緑地でも可能になったが、PR等で促進した方がいいと思います。 	<p>農地の借り手への支援については、今後の遊休農地の需給バランス等をみながら、必要があれば検討してまいります。</p> <p>生産緑地地区の農地の貸借が可能になったことについては、横浜農協とも連携しながら、周知を図ってまいります。</p>
緑生地産	<ul style="list-style-type: none"> 特定生産緑地へ円滑にシフトできるよう、市と農協が連携して制度周知及び事務手続きを進めてほしい。 	<p>ご意見のとおり、横浜農協と連携して、制度の周知並びに、特定生産緑地への指定手続きを進めてまいります。</p>
宅地化農地	<ul style="list-style-type: none"> 宅地化農地や特定生産緑地に指定されない30年経過後の生産緑地も含め、農業施策の対象としてほしいです。 	<p>土地を受益とする支援については受益地の担保性がないため難しいと考えておりますが、人を対象とした事業は支援対象となります。</p>

5 市民が身近に農を感じる場をつくる施策に関すること

	主なご意見の趣旨	本市の考え方
保水田	<ul style="list-style-type: none"> 水田は一度畑にされると元に戻すのは簡単ではないので、あらゆる取組を進めてほしいです。 借地の水田の稲作に、所有者には奨励金が出て、頼まれて作っている耕作者に奨励金がないのは不公平だと思います。 	引き続き水田保全を継続してまいります。自分で耕作するか他人に耕作してもらうかを問わず、水田を水田のまま保全するかどうかは、所有者の判断によるものと考え、奨励金は水田所有者の方に交付しております。
確水保源	<ul style="list-style-type: none"> 水田の水路が老朽化しています。整備への積極的な働きかけをしてほしいです。 水田の水源・水路などの確保をお願いします。 	良好な水田景観を保全するために必要な水源や水路を確保するために、引き続き、まとまりのある水田がある地区を対象に施設の設置や改修を進めてまいります。
農景観	<ul style="list-style-type: none"> 農地の周囲に美しい植栽がなされているところがあり、市内各地にこういった場所が増えるように支援を進めてほしいです。 	まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動支援として、団体が実施する農地縁辺部の植栽への支援を行っています。今後も引き続き支援を進め、市民の皆様がより親しむことができる農景観づくりを進めていきます。
多機能的	<ul style="list-style-type: none"> 農地の多面的機能は、農家が多大なる協力をしている。農地がなければ多額の税金で代わりものを整備しなければならぬと思います。 	農地は食料を生産する役割だけでなく、生物多様性の保全など多様な機能を有していると考えており、多面的機能を有する優良な農地の保全を計画の目標の1つとして位置付けています。いただいたご意見を踏まえ、引き続き計画を推進してまいります。
農市民園	<ul style="list-style-type: none"> 設備の整った市民農園が増えたら、市民が農業にふれる機会が増え、農業を大切なものと感じることにつながると思います。 	施設の整備助成など、引き続き市民農園の開設支援を推進してまいります。
体収穫	<ul style="list-style-type: none"> 収穫体験の機会をもっと増やすことで、横浜の農業について考え意識づけられると思います。 収穫体験が通年で楽しめると思いいます。 	市民ニーズが高い収穫体験農園については、農家による開設を支援する取組を引き続き進めてまいります。
農体験	<ul style="list-style-type: none"> 畑や田んぼが多くあればこそ、それとふれあう場をもっと作ってほしいです。 通年で行えるような農業体験があるといいなと思います。 	ご意見にいただいた、農業体験を進める取組として、農とふれあう場づくり事業を定めています。横浜ふるさと村・恵みの里などでは栽培期間を通した農業体験教室も行ってありますが、これまで以上に市民の皆様が農とふれあう場が充実するよう、計画を進めてまいります。

6 地産地消の推進の施策に関すること		
	主なご意見の趣旨	本市の考え方
地産地消	<ul style="list-style-type: none"> 横浜の農業の強みは身近に消費者が多いことなので、地産地消につながる場が増えるといいと思います。 地産地消の活動は、地域の安全な食の提供、環境保全につながるため、良いと思います。 	都市と農が共存する横浜の特徴を生かし、横浜らしい地産地消の取組を引き続き進めていきます。
直売	<ul style="list-style-type: none"> 直売所には、統一ののぼりや看板など、もっとPRしてほしいです。 もっと直売所への支援を増やしてほしいです。 横浜駅やみなとみらい等、人が多く集まるところに常設のアンテナショップを作って、アピールしてほしいです。 横浜産の野菜を直売所で購入したが、とても味が濃く新鮮でとても美味しかった。これからも頑張してほしいです。 	市民が市内産農畜産物やそれを使った加工品等を購入できる場や機会を充実させる取組を引き続き進めていきます。また、「横浜農場」のプロモーションとして、直売所やマルシェ等で利用する統一ののぼり等を作成・配布する取組を行っていきます。
ブランド化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を生かした産物に期待したいです。 さらなるブランド化を図り、横浜で農業をやっていることをアピールしてほしいです。 横浜の農産物で「浜なし」以外にも、ブランド化できるものがあると思います。 	横浜で生産される農畜産物や美しい農景観、それに関わる人々など、横浜らしい農業全体をひとつの農場に見立て「横浜農場」という言葉で表し、都市の魅力としてブランド化を進めています。
PR農産物	<ul style="list-style-type: none"> 横浜産ブランドの農産物にどんなものがあるのか、もっと色んな媒体を使って、地産地消を推進してほしいと思います。 横浜のどこでどんなものが生産されているか、あまり知らないなので、PRをもっとすればよいです。 	横浜で生産される農畜産物や美しい農景観、それに関わる人々など、横浜らしい農業全体をひとつの農場に見立て「横浜農場」という言葉で表し、積極的なプロモーションを進めていきます。
学校給食等	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食での供給は素晴らしいことと思います。 学校給食などにもっと取り入れれば、親近感も強まるのではないかと思います。 	学校給食での市内産農産物の一斉供給や料理コンクールの開催など、小学生を対象として市内産農産物に親しんでもらう取組を行っており、引き続き取組を進めていきます。
食農教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の一環で農業体験や食に関する授業等を実施し、農業を身近に感じる場があるといいです。 	地域の農家の指導で、児童が農作物を栽培する環境学習農園の取組などを引き続き支援してまいります。
飲食店等連携	<ul style="list-style-type: none"> 横浜産認定農畜産物の使用飲食店の認定制度をつくると思います。 	市内産農畜産物を使ったメニューを提供する飲食店を、「よこはま地産地消サポート店」として登録し、都心臨海部や郊外部での登録店を紹介したマップも作成していますのでご利用ください。
企業連携	<ul style="list-style-type: none"> 私鉄やJAが主催した野菜の収穫イベントに参加し、野菜のおいしさに感動しました。企業等とタイアップし、地産地消にふれあう機会を企画してください。 	生産者と企業等とのマッチングなどにより、市民や企業等と連携した地産地消の取組を推進しています。また、情報誌やパンフレットの作成、ウェブサイトの活用などにより地産地消の取組を発信していますので、ご活用ください。

7 その他のご意見		
	主なご意見の趣旨	本市の考え方
資産税	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産税の支払い負担の軽減をお願いします。 市街化区域農地に対する固定資産税の負担をもっと緩和してください。 	農地の固定資産税については、市街化区域の場合は規制と引き換えに税負担が軽減されており、生産緑地地区への指定が前提となります。なお、横浜市独自の制度として、農家の住宅敷地内等にある農業用施設用地の評価を軽減する制度がありますのでご活用ください。
相続税	<ul style="list-style-type: none"> 相続税の支払い負担の軽減をお願いします 相続税負担の軽減を図り、安心して次世代に引き継ぎできるようにしてほしいです。 	農地の相続税については、相続税納税猶予制度により、負担が軽減されています。本市では、これまでもその適用の拡大を国に要望してきておりますが、いただいたご意見も参考に、今後も取り組んでまいります。
樹林地	<ul style="list-style-type: none"> 荒れた竹林、山林の整備を支援してください。 	市の緑地保全施策により指定された山林については、一定の助成策がありますが、それ以外の民有林に対する支援は難しいと考えています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 横浜農業においてSDGsを意識した取組が記載しておらず、少し残念に思っています。今から、市としてSDGsをどのように活かして行動していくかを市民に表していくことは必要だと思います。 	農政施策は持続可能性という点で、本来的にそうした姿勢を持った取組と考えています。中期4か年計画や環境管理計画など市の他計画にもSGDsが盛り込まれており、整合を図るため、プランの原案に記述を加えました。